

## 令和6年度「二条城障壁画 展示収蔵館」原画公開内容 シリーズ二条離宮の時代

	公開期間	公開内容	公開作品
春期	4月25日(木)～ 6月23日(日) 〔60日間〕	<p><b>二条離宮の大広間 ～〈大広間〉一の間～</b></p> <p>明治17年(1884)、二条城は皇室の別邸である二条離宮になり、二の丸御殿の修繕がされました。また、同30年代に廊下などの障壁画が新調されました。大正天皇(1879-1926)の皇太子時代、〈大広間〉は拝謁の場となったことがあり、一の間に皇太子が座したと考えられます。明治時代(1868-1912)の新しい息吹を感じさせる廊下を通ってから入室した〈大広間〉一の間は、江戸時代(1603-1868)の重厚さを感じさせたことでしょう。皇太子が座したであろう〈大広間〉一の間障壁画を公開します。</p>	<p>〈大広間〉一の間障壁画《松竹錦鶏図》、《花卉図》、《水仙図》</p>
夏期	7月18日(木)～ 9月15日(日) 〔60日間〕	<p><b>障壁画再生 ～式台の間～</b></p> <p>式台の間は、〈遠侍〉に控えていた昇殿者が、〈大広間〉での将軍との謁見に向けて老中に取り次を求めた場所とも言われます。壁面には大小の松が描かれています。一方、式台の間と廊下との境にはめられている腰障子の貼付絵は、様々な花鳥図なのですが、これらは二条城が離宮になった直後に行われた城内の大修理の際に、城内に遺されていた障壁画を再利用したものです。離宮に相応しい内装を整えるための修繕で、元の姿から形を変えて再生した障壁画をご覧ください。</p>	<p>〈式台〉式台の間障壁画《松図》、《花鳥図》</p>
秋期	10月10日(木)～ 12月8日(日) 〔60日間〕	<p><b>葵から菊へ ～〈白書院〉一の間・二の間～</b></p> <p>明治17年(1884)、二条城が二条離宮になると、皇太子時代の皇太子が本丸御殿を宿泊所としました。〈白書院〉は、天井に至るまで飾金具が葵から菊の紋に変えられ、皇族の御座所となったことがうかがえます。江戸時代、一の間は将軍の居室として用いられ、ゆったりとした湖畔の眺望が障壁画に描かれます。明治時代、くつろぎの空間を飾った《西湖図》は、新たな主人も癒したことでしょう。</p>	<p>〈白書院〉一の間・二の間障壁画《西湖図》</p>
冬期	12月23日(月)～ 令和7年2月23日 (日・祝) ※12月29日～31日は休館 〔60日間〕	<p><b>御所から来た障壁画 ～〈大広間〉・〈黒書院〉帳台の間～</b></p> <p>〈大広間〉と〈黒書院〉の帳台の間には、京都御所から来た障壁画があります。これらの障壁画の一部は、もとは18世紀初頭の御所造営に際して建てられた姫宮御殿に描かれたもので、離宮時代(1884-1938)に上述した2つの帳台の間に転用されました。和歌の題材である竜田川や武蔵野、和歌の神様を祀る住吉神社や和歌浦を描くこれらの障壁画は、御所における和歌文化の様相を伝えるとともに、御所と二条城の関わりを示す、貴重な作品です。</p>	<p>〈大広間〉帳台の間障壁画《竜田風俗図》、《武蔵野図》、〈黒書院〉帳台の間障壁画《名所風俗図》、《秋草図》、《松柳白鷺図》</p>